

立寄市名
院病合総

看護研究に高い評価

日本看護学会が優秀論文賞

長期入院患者の支援 取材通じ課題、あり方検証

【名寄】市立総合病院（和泉裕一院長）心療内科・精神科の看護師らが看護研究でまとめた論文が、第44回日本看護学会優秀論文賞（精神看護）を受賞した。長期入院患者の退院支援をテーマに、病院、患者双方の視点で課題を掘り下げた。同院看護部としては初の受賞。

（吉永雅人）



受賞を喜ぶ岩城看護部長（左）、発表者の山田看護師

学会10領域のうち、3領域が「該当なし」という狭き門。精神看護領域では、53論文中、優秀論文賞は同病院の「精神科長期入院患者の退院に関連する自立への不安―患者の地域生活を踏まえた退院支援の語り」のみだった。昨年9月、群馬県での同学会で発表者を務めた山田涼子看護師（32）は「驚いた。患者さんにも協力してもらった看護研究の論文

なので大変うれしい」と喜ぶ。

同病院看護部は毎年、各部署で看護研究に取り組み、院内や道看護協会、さまざまな研究会で発表。2年前

からは名寄市立大学教員に論文指導も受けている。岩城美幸看護部長は「看護研究は看護の質を上げるために大切なこと。高い評価を誇りに思う」と話している。

受賞論文は、同科の山田さん、土田桂子さん、阿部加奈さん、笹井翔平さんのスタッフ4人と長谷川博亮名寄市立大准教授の共著。

同院精神科に20年以上入院していた男性の退院支援を事例に、病院の支援のあり方を考察した。

退院後の2012年、地域生活を送っている男性にインタビュー取材を行い、入院中の支援が効果的だったか、自立への不安を解消するために必要な視点などを、男性の証言から裏付けながら考察

した内容。男性にとって病棟で制限されるたばこが、地域では自由に吸えることが、自立への気持ちの後押ししていた。論文は「生活者としての視点を持たなければ、患者の不安の対処ができない」と、退院後のイメージを具体化する

「マニッシュ」メトレス

ための多職種との連携、根強い支援の継続を提言している。山田看護師は「患者さんの本当の思いを知ることが大切ではないかと研究テーマに選んだ。退院が振り出しに戻ったこともあったが、先入観を持たず、時間を掛ければ退院できるということをわたしたちも学べた」と成果を話している。

名寄市西4南5 25655